

## listener.ora (サーバー側) の定義

Oracle ホーム ¥ network ¥ admin ¥ フォルダ

listener.ora リスナーファイル

### 動的 (リスナー) サービス登録

オラクル認定資格学習書 Silver-1

動的 (リスナー) サービス登録を行う場合は、listener.ora ファイルの  
SID\_LIST\_LISTENER 文の設定が不要となる

ただし、動的 (リスナー) サービス登録を行う場合は、データベース側の初期化パラメータを設定する必要がある

デフォルトのリスナー (リスナー名 : LISTENER) でポート 1521 を使用して、データベース側からのリスナーへの動的 (リスナー) サービス登録を行う場合には、リスナー登録が不要で、listener.ora ファイルを修正する必要がなくなる

#### 初期化パラメータ

SERVICE\_NAME : グローバル・データベース名

INSTANCE\_NAME : Oracle SID 名

LOCAL\_LISTENER : 使用するリスナーの名前  
(listener.ora ファイルの中の<リスナー名>  
~~ポート番号~~)

REMOTE\_LISTENER : リモートリスナーのアドレス  
(存在する場合のみ設定)

複数のリスナーを指定する場合には、カンマ (,) で区切る

```
alter system set "local_listener" = '<リスナー名 1> , <リスナー名 2>'
scope=both sid= '<対象データベースとなる Oracle_SID>';
```

## listener.ora ファイルの構文

```
# listener.ora Network Configuration File:
# %ORACLE_HOME%\network\admin\listener.ora
```

<リスナー名> =

```
( DESCRIPTION_LIST =
  ( DESCRIPTION =
    ( ADDRESS = ( PROTOCOL = <プロトコル> )
      ( HOST = <ホスト名> )
      ( PORT = <ポート番号> )
    )
  )
)
```

SID\_LIST\_<リスナー名> =

```
( SID_LIST =
  ( SID_DESC =
    ( GROBAL_DBNAME = <グローバル・データベース名> )
    ( ORACLE_HOME = <Oracle ホームのディレクトリ・パス> )
    ( SID_NAME = <Oracle SID 名> )
  )
)
```

リスナーが中継する  
先のデータベースに  
ついてを記述する

```
LOG_DIRECTORY_LISTENER = <ログ・ファイルの出力先ディレクトリ>
LOG_FILE_LISTENER = <ログ・ファイルの名前>
TRACE_DIRECTORY_LISTENER = <トレース・ファイルの出力先ディレ  
クトリ>
TRACE_FILE_LISTENER = <トレース・ファイルの名前>
TRACE_LEVEL_LISTENER = <取得するトレースのレベル>
```

### 設定値の説明

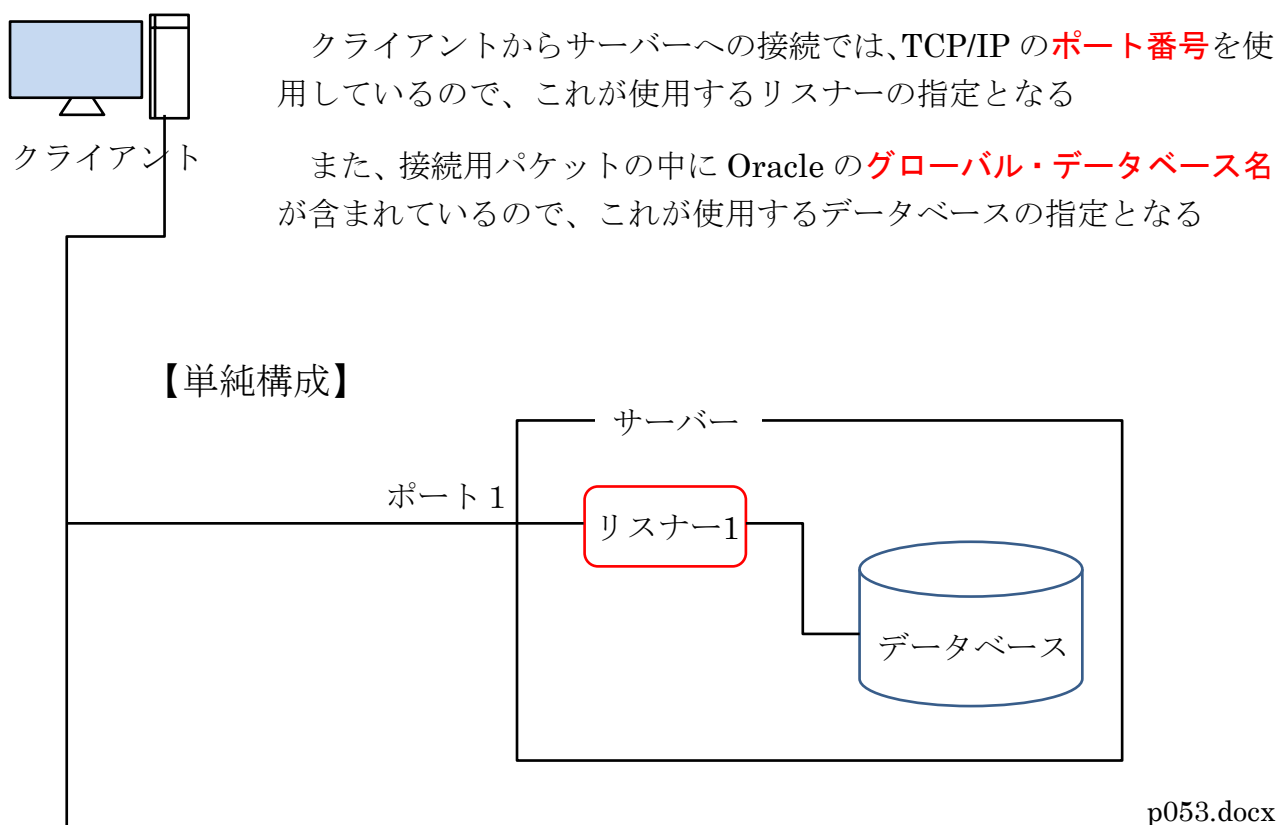
<リスナー名> : リスナーに対する名前を任意に指定する  
デフォルト名 : LISTENER

<プロトコル> : TCP or IPC

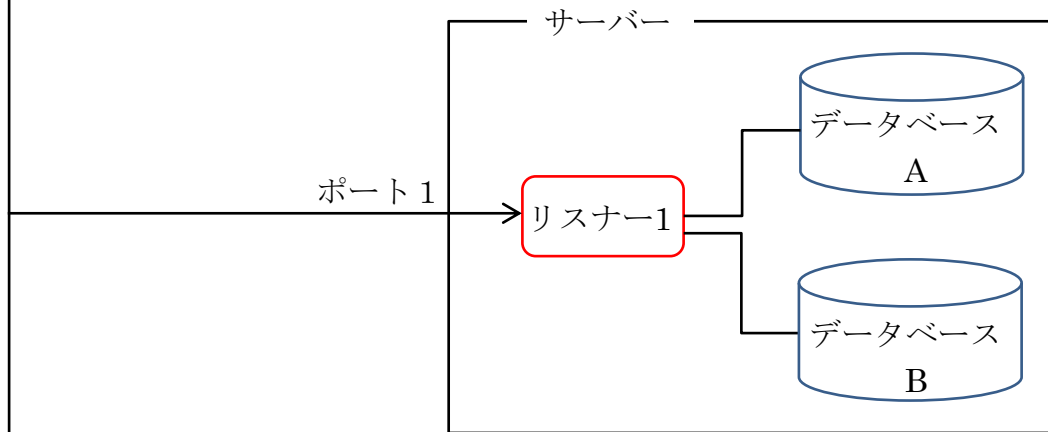
※ プロトコルに IPC を指定する場合は、ADDRESS 文は以下のように記述  
( ADDRESS = ( PROTOCOL = IPC ) ( KEY = EXTPROC1521 ) )

- ・リスナーを複数個用意する場合には、の部分がリスナーごとに必要となるので、**複数個**の記述を行う
- ・1つのリスナーが複数のデータベース・インスタンスのリスニングを行う場合には、SID\_LIST\_<リスナー名>文の中の『(SID\_DESC =』記述部分がデータベース・インスタンスごとに必要となるので、**複数個**の記述を行う
- ・SID\_LIST\_<リスナー名>文の記述部分は、データベース側から動的（リスナー）サービス登録を行って登録する場合には、記述が不要
- ・<リスナー名>文の記述は、リスナー名が LISTENER、ホスト名が Localhost、プロトコルが TCP/IP、ポート番号が 1521 の場合には、その記述が省略可能となる
- ・ログ・ファイル、トレース・ファイルに関する記述は、デフォルト設定を使用する場合には、省略可能である

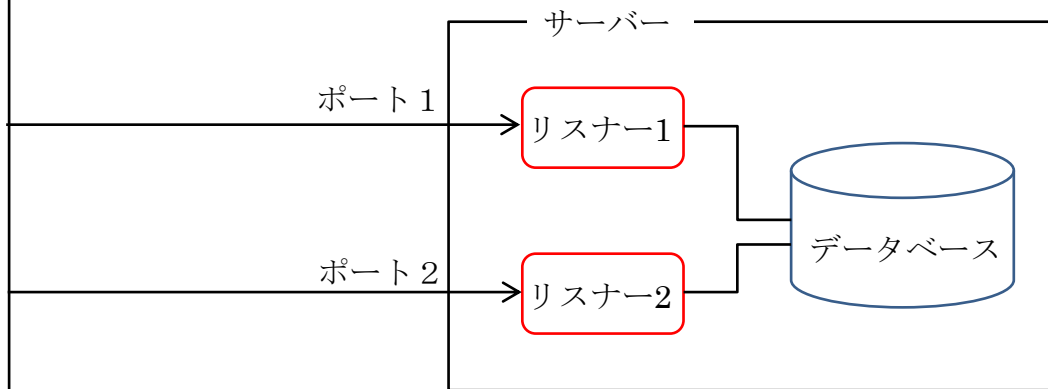
## リスナーとデータベース・インスタンスの実装構成



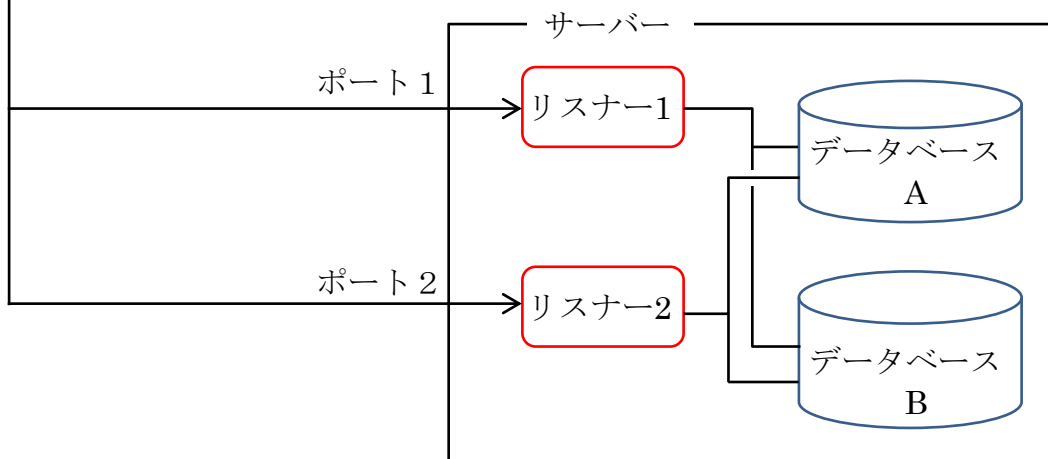
【リスナーが1、データベースが複数の構成】



【リスナーが複数、データベースが1の構成】



【リスナーが複数、データベースが複数の構成】



listener.ora (サーバー側接続待ち受けプロセス用設定)

Oracle ホーム¥network¥admin¥フォルダ

設定例)

**【Oracle12c】**

Net configuration Assistant にて作成したファイル

# listener.ora Network Configuration File:

# %ORACLE\_HOME%¥network¥admin¥listener.ora

# Generated by Oracle configuration tools.

SID\_LIST\_LISTENER =

(SID\_LIST =

(SID\_DESC =

(SID\_NAME = CLRExtProc)

(ORACLE\_HOME = D:¥Oracle\_Base¥product¥12.2.0¥dbhome\_1)

(PROGRAM = extproc)

(ENVS

"EXTPROC\_DLLS=ONLY:D:¥Oracle\_Base¥product¥12.2.0¥dbhome\_1¥bin¥oraclr12.dll")

)

)

LISTENER =

(DESCRIPTION\_LIST =

(DESCRIPTION =

(ADDRESS = (PROTOCOL = TCP)(HOST = Business2-PC)(PORT = 1521))

(ADDRESS = (PROTOCOL = IPC)(KEY = EXTPROC1521))

)

)

## 【Oracle11g】

```
# Name listener.ora  
# Folder Oracle ホーム¥network¥admin
```

```
LISTENER =  
  (DESCRIPTION_LIST =  
    (DESCRIPTION =  
      (ADDRESS = (PROTOCOL = IPC)(KEY = EXTPROC1521))  
      (ADDRESS = (PROTOCOL = TCP)(HOST = SVR)(PORT = 1521))  
    )  
  )
```

```
# listener.ora ファイルには、オラクル SID を設定する項目は、無い  
# よって、複数のオラクル SID に対応させるためでも、設定は一つで可能である
```

※ リスナーサービスに関しては、複数の Oracle インスタンスに対して、一つの共通のリスナー・プロセスで処理を行います。

よって、以下の操作は不要です。 (P217)

別プロセスが必要になった場合の参考としての情報です。

## Oracle Net Configuration Assistant ツールでの作成

手順 1.

Oracle Net Configuration Assistant の起動

[スタート] → [Oracle\_OraClient11g\_home1] → [コンフィグレーションおよび移行  
ツール] → [Net Configuration Assistant]

手順 2.

構成を選択します

- リスナー構成 → listener.ora の作成
- ネーミング・メソッド構成
- ローカル・ネット・サービス構成 → tnsnames.ora の作成
- ディレクトリ使用構成

これ以降の操作に関して、「はじめての Oracle11 g」には記述なし